

佳作

ベルリンの壁

イギリスウェールズ日本人補習授業校六年 エドワーズ 咲良

第二次世界大戦の後、負けたドイツは、東と西に分けられてしまった。東はソ連（今のロシア）の指導のもと、共産主義の国になり、西は、アメリカ、イギリス、フランスの指導のもと、民主主義の国になった。ベルリンはその時東ドイツに入っていたが、西半分だけはアメリカ、イギリス、フランスが管理していた。ベルリンの東半分は東ドイツが管理していたので、まわりの地域と同じく自由ではない、貧しい生活を送っていた。そのような中、ベルリン市内でも、東側から西側に移住しようとする人が増え続けたため、それを止めるために、東ベルリンと西ベルリンの間に高い壁が作られた。

壁を見に行った時、昔西側だった方の壁にはたくさんさんの落書きがあり、壁がカラフルに彩られていた。これに対して、東側だった壁には数少ない言葉しか

書かれていなくて、ほぼ真白だった。これを見た時わたしは東の人々がどれくらい自由を制限されていたのかよくわかった。それと、ソ連の指導の仕方がいかに厳しかったのかということにも気づいた。壁の反対側にいるだけなのに人のあつかい方がどれくらいちがったのかも、わたしの心に強く伝わった。

近くの資料館に行くと、そこには、壁ができた理由や当時の歴史などのくわしい説明があった。東ベルリンから逃げた人の話や、逃げても成功しなかった人の話も読むことができた。たまたまその地域に住んでいただけで家族や友人が自由に会えなくなってしまったことは、どんなに悲しかっただろう。ベルリンの壁が一九八九年にこわされた時の映像が大きくスクリーンに映し出されていた。わたしの両親がまだ学生だったころ、その瞬間をライブで見たと話してくれた。わたしはそれを聞いてそれほど遠い昔のことではないことにおどろいた。

壁がこわされた後ドイツは統合し、また平和な国になった。戦争はいろいろの意味で人の自由をうばってしまふ。だからおたがいをそん重し、差別のない、平和な世の中が続くように努力しなければならぬと思う。

資料館に、「何でも好きなメッセージを書いて下さい」というコーナーがあった。いろいろな国の人達がそれぞれ言葉や絵でメッセージを書き、それらがたくさんつるされていた。わたしも、日本語で「自由」という言葉を書いた。